



Title	【定年退職教授の履歴および主要業績】友枝敏雄教授
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2017, 43, p. 267-272
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/60571
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【定年退職教授の履歴および主要業績】

友 枝 敏 雄 教授

とも えだ とし お
友 枝 敏 雄 教授

- 1975年3月 東京大学文学部社会学科卒業
 1975年4月 東京大学大学院社会学研究科社会学A専門課程修士課程入学
 1977年3月 同上修了
 1977年4月 東京大学大学院社会学研究科社会学A専門課程博士課程進学
 1979年4月 東京大学大学院社会学研究科社会学A専門課程博士課程退学
 1979年5月 東京大学文学部社会学科助手
 1984年4月 中央大学文学部専任講師（社会病理学担当）
 1987年4月 九州大学文学部助教授（社会学講義担当）
 1996年9月 九州大学文学部教授（社会学講義担当）
 1998年4月 九州大学大学院人間環境学研究科・文学部教授
 2000年4月 九州大学大学院人間環境学研究院・文学部教授
 2006年4月 大阪大学人間科学研究科教授
 2017年4月 大阪大学名誉教授

友枝敏雄教授は、1975年3月東京大学文学部を卒業後、1977年3月に東京大学大学院社会学研究科修士課程修了、1979年5月に東京大学文学部社会学科助手に任用され、1984年4月中央大学文学部専任講師、1987年4月九州大学文学部助教授、1996年9月九州大学文学部教授などを経て、2006年4月に大阪大学人間科学研究科教授に着任、2010年には大学院研究科長として人間科学研究科の発展に尽力し、2017年3月31日限りで定年退職するものである。

この間、友枝教授は、長年にわたり人間科学部・大学院人間科学研究科の学生教育と人間科学の学術的発展に多大な貢献を行った。同教授は、社会変動分析、理論社会学、公共性と社会秩序に関する社会学的研究を専門とし、同分野においてすぐれた研究成果を残した。社会変動分析においては、同教授は、SSM調査の分析を通じて、1970-80年代における階層志向性の変化を分析し、同時代における日本人の価値観の変動や既存体制への態度を明らかにした。こうした功績に対して1991年には、共同研究者の1人として第1回福武直賞を受賞している。

また、1970年代から90年代まで5回にわたる全国世帯調査から貯蓄行動に関する社会学的分析を行い、高度経済成長期における日本人の貯蓄行動の変化、貯蓄行動と政治的志向性との関連性を明らかにする優れた業績をあげた。貯蓄行動に関する本研究は、社会的に高い評価を受け、2003年には日本郵政公社総裁表彰を受けた。

理論社会学の領域においても、社会学分野の多くの教科書や専門著書において、数多くの理論に関する概説や社会理論に関わる重要な論考を発表しており、十年以上にわたり本研究科社会環境学講座の理論社会学分野を支えてきた。中でも『Do! ソシオロジー』（有斐閣、2013年）や『社

会学のエッセンス』(有斐閣、2007年)などは、大学院入試のための必須の図書として多くの大学院受験生に読まれている。

公共性と社会秩序に関する領域においては、同教授は、1990年代から2010年代にいたるまで長期にわたり高校生の規範意識調査を継続し、その成果は『現代高校生の規範意識』(共編著、九州大学出版、2003年)、『現代の高校生は何を考えているか』(編著、世界思想社、2009年)、『リスク社会を生きる若者たち—高校生の意識調査から—』(編著、大阪大学出版会、2015年)に集約され、新聞紙上などでもしばしば言及される古典的研究業績となった。高校生の規範意識に関する社会調査は、多くの大学院生が参加し、上記の著作においても、参加した大学院生の論考が多数掲載され、大学院教育の一環としても優れた教育効果をもたらした。

友枝教授は、2006年4月に大阪大学大学院人間科学研究科社会環境学講座に着任以来、理論社会学分野の中心教員として活躍し、共通教育における全学向けの授業科目、学部の「社会学説史」「理論社会学」などの講義科目、また理論社会学の演習および実験実習科目を担当し、多数の学部生の卒業論文指導にあたってきた。大学院においては、これまでに20名以上の大学院生の指導にあたり、優れた社会人および研究者を輩出してきた。また、2012年からは、卓越した大学院拠点形成支援補助金「コンフリクトの人文学国際研究教育拠点」運営委員会副委員長を務め、本研究科における大学院教育の充実に努めた。

友枝教授は、研究科内においては、図書室長などを歴任し、2008年から評議員、2010年5月から2年間にわたり学部長・研究科長として、人間科学部・大学院人間科学研究科の管理運営に尽力した。2012年度には研究倫理委員会委員長として研究倫理審査体制の整備に努め、また国際医工情報センター研究倫理委員会委員などにおいて学内他部局の研究倫理審査にも協力した。

学外での功績・活動としては、公益財団、自治体、国の機関などにおいて重要な役割を担い、九州大学在職時からゆかりのある自治体、公益法人、新聞社などにおいて多くの委員を務めている。とりわけ日本学術会議においては、2008年より現在に至るまで社会学委員会の要職を務め、2011年10月以降、第一部会員として社会理論分科会委員会委員長を務めている。また、日本社会学会の理事を4期、合計12年にわたり務め、その間、社会学教育委員会委員長、庶務理事などの要職を務め、現在は日本社会学会評議員を務めている。そのほかに、西日本社会学会評議員・理事、関西社会学会常任理事も務め、学会の発展に大きな功績を残した。また、日本学術振興会においても、特別研究員審査会(5期10年)、科学研究費委員会(2期)の専門委員を務めている。大学評価の分野では、お茶の水女子大学、東北大学など国内の有力な大学の外部評価に携わり、大学評価・学位授与機構機関別認証評価委員会専門委員も務めた。

以上のように友枝敏雄教授は、人間科学の学術的発展とその教育、また大阪大学と人間科学研究科の組織管理運営に尽くされている。

主　要　業　績

著書

1. 友枝敏雄編『リスク社会を生きる若者たち－高校生の意識調査から－』大阪大学出版会
2015年4月
2. 友枝敏雄・山田真茂留編『D o ! ソシオロジー 改訂版』有斐閣 2013年3月
3. 友枝敏雄編『現代の高校生は何を考えているか』世界思想社 2009年5月
4. 友枝敏雄『モダンの終焉と秩序形成』有斐閣 1998年10月
5. 友枝敏雄『戦後日本社会の計量分析』花書院 1998年3月

他 18 冊

学術論文

1. 友枝敏雄「リスク社会における若者の意識」『教育と医学』705号, 2012年3月
2. 友枝敏雄「規範の社会学(2)」『共生社会学』第5号, 2006年2月
3. 友枝敏雄「戦後日本における社会学の<知>の変遷」『社会学評論』第56巻3号, 2005年12月(山田真茂留との共著論文)
4. 友枝敏雄「モダニティの社会理論」『社会学年報』特別号50周年記念誌, 2004年7月

他 28 報